

奄美豪雨災害

被害の概要

奄美地方では、停滞する前線と台風13号の影響により、平成22年10月18日から総雨量が800ミリを超える記録的な集中豪雨となり、各地で土砂災害が58件発生しました。

これに伴い、死者1名・負傷者3名の人的被害、全壊6戸・半壊1戸・一部損壊8戸の家屋被害が発生したほか、奄美大島では幹線道路の国道58号が39箇所で全面通行止になるなど、島内全域で広範囲かつ甚大な被害を受けました。



奄美市住用町西仲間地区



大島郡龍郷町中勝地区



大島郡大和村大和浜地区

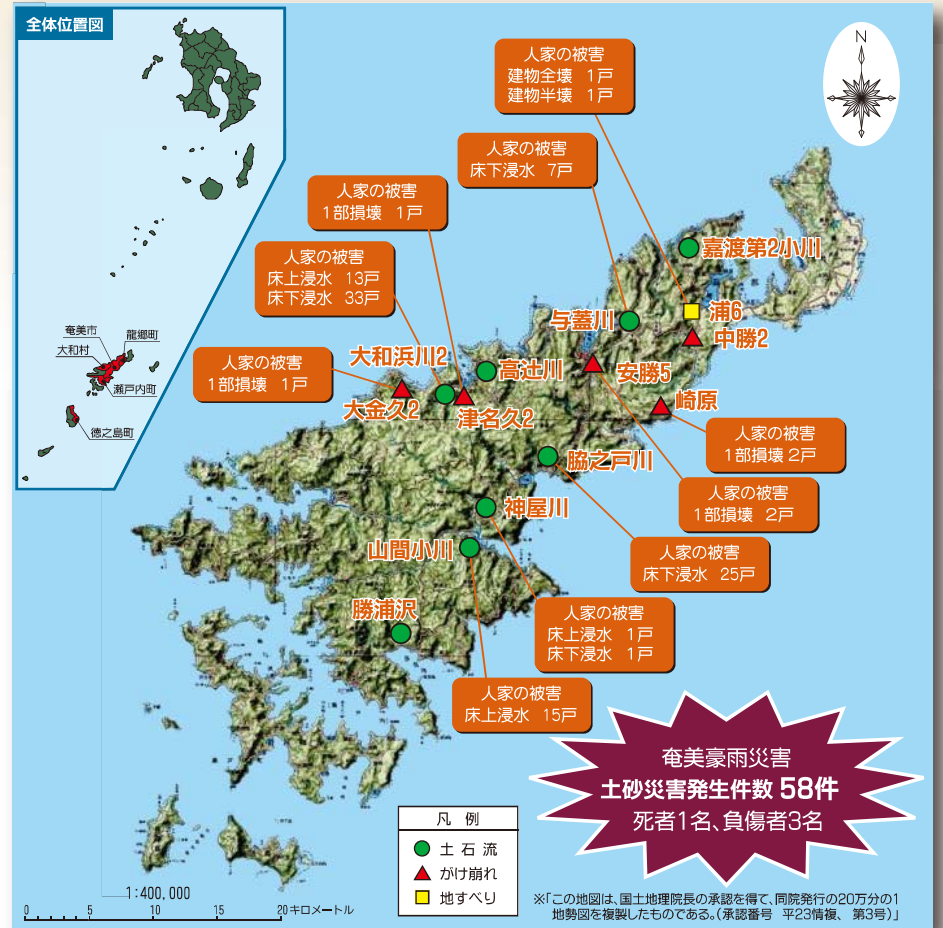


大島郡龍郷町浦地区



大島郡住用町城地区(城トンネル)

主な災害発生箇所



被害の状況

総計	人的被害(人)		建物被害(戸)			土砂災害(箇所)			合計
	死者	負傷者	全壊	半壊	一部破壊	土石流	がけ崩れ	地すべり	
奄美市	0	2	2	0	3	13	16	2	31
大和村	-	-	1	0	2	3	5	-	8
瀬戸内町	-	-	-	-	-	2	3	-	5
龍郷町	1	1	3	1	-	2	8	2	12
徳之島町	-	-	-	-	-	-	2	-	2
合計	1	3	6	1	5	20	34	4	58

気象の概要

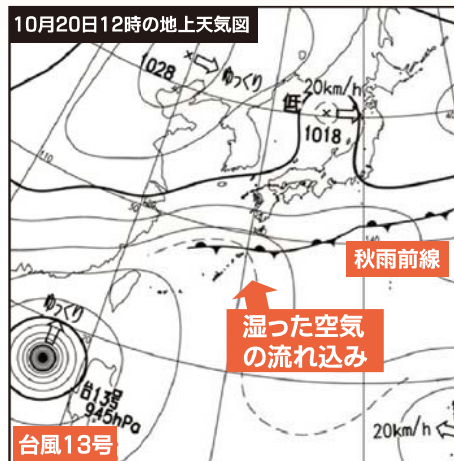
平成22年10月18日から21日にかけて奄美地方付近に前線が停滞し、台風13号の影響による湿った空気が流れ込んだため、雨雲が次々と発生し、長時間、大雨を降らせる状態が続きました。そのため、奄美地方では、総雨量が多いところで800ミリを超える記録的な集中豪雨に見舞われました。

奄美市名瀬では、20日23時20分までの最大24時間降水量が648.0ミリ、20日の日降水量が622.0ミリと、ともに年間の観測史上1位の降雨となりました。

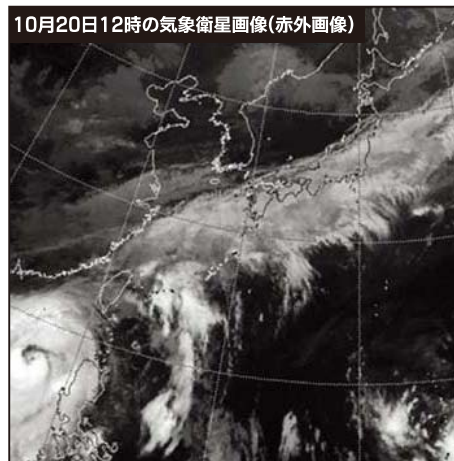
18日21時から20日24時までの総降水量は、奄美市名瀬で10月の平均の月降水量(238.7ミリ)の約3倍に匹敵する715.5ミリを観測したほか、瀬戸内町古仁屋で362.5ミリ、伊仙で278.0ミリ、天城で249.5ミリ、奄美市笠利で212.0ミリの雨量を記録しました。

出典:災害時気象資料(鹿児島地方気象台)

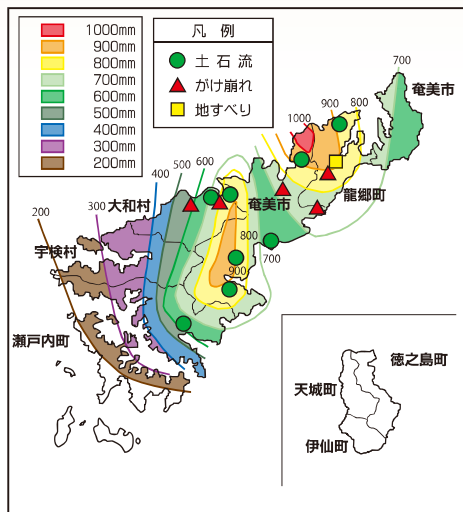
■天気図



■衛星画像



■等雨量線図 (10月18日0時~24日24時までの総雨量)



1m以上増水した泥水に浮かぶ乗用車(奄美市住用総合支所駐車場)

浸水被害が集中した奄美市住用では、20日午前10時から午後1時までの3時間で、観測雨量が100年に1度といわれる雨量の1.8倍に相当する354ミリに達しました。

降雨状況 過去10年間(平成12年~平成22年)の年間総雨量

